

海外紹介

世界の鍼灸コミュニケーション(11) ～『北米東洋医学誌』について～

全日本鍼灸学会国際部委員
北川 毅

An Introduction to the "North American Journal of Oriental Medicine"

Takeshi KITAGAWA
the Department of International Affairs at JSA

はじめに

北米(USA、カナダ)に在住する東洋医学従事者が中心となって日本の伝統医術に関する同人誌を発行しているグループがある。この同人誌は「北米東洋医学誌」(North American Journal of Oriental Medicine NAJOM)という名称で、北米において東洋医学に従事する人々の自己啓発と学術交流を目標として1994年7月に創刊されたものである。本稿では、この「北米東洋医学誌」とその母体の会の活動についてご紹介したい。

1. 『北米東洋医学誌』の発行と会員

『北米東洋医学誌』は年に3回発行され、現在の会員数は121名、購読者は70名、発起人は以下の6名である。

齊藤哲朗(トロント・指圧センター)

神谷一信

(トロント・指圧スクール オブ カナダ)

市橋宏樹(サンフランシスコ・鍼灸指圧開業)

水谷潤治(バンクーバー・鍼灸指圧開業)

スティーブ・ブラウン

(シアトル・鍼灸指圧開業)

高橋英生(バンクーバー・鍼灸指圧開業)

順不同、敬称略

会員は治療家が主体であり、年会費50カナダドル(40米ドル、または日本円で4,000円)で自由に

投稿することができる。「会員」というのは、同人誌としての「北米東洋医学誌」を積極的にサポートする存在であり、「購読者」は雑誌を読むだけの存在である。「購読者」も、やはり治療家を中心としているが、一般人や学生も対象としている。投稿規定は、会員若しくは招待原稿のみで、購読者は投稿できない。会員の構成を国別に見ると

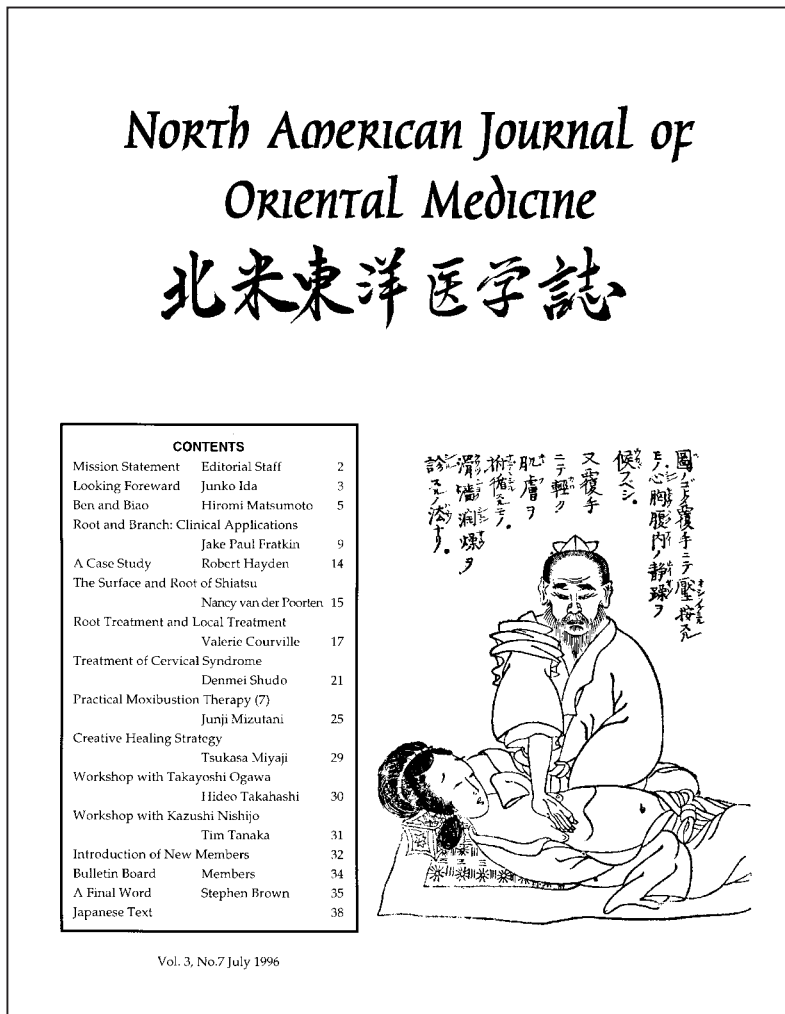
USA	70名
CANADA	22名
日本	17名
イギリス	
スウェーデン	
オーストラリア	
スイス	
イスラエル等	1名～数名

上記の通りで、現在では北米の地域内にとどまらず、日本の鍼灸を実践する治療家たちの間で世界規模で読まれており、さらに会員間のネットワークを構築していくために、雑誌が送付される際に、会員の住所録が雑誌に同封されて配布される。投稿者は現在のところ、北米と日本が半々ということである。

2. 「北米東洋医学誌」の発行と主旨

「北米東洋医学誌」に掲載されている「北米東洋

写真 北米東洋医学誌表紙(第7号)



論と実践に焦点をあて、この意図を追求していくのである。それには治療において触診を重要な役割として強調する日本鍼灸、漢方、指圧、按摩、導引等が含まれる。

日本系伝統医学は千年以上の長きにわたる発達を通じ、東洋医学の数々の様相やその展開又理論の粋を集めた結晶となった。現在、東洋医学は世界中で実践されるものとなった。そして今後も、世界の各地でその場の環境と必要性に応じて展開され、発展を遂げていくであろう。NAJOMは日本系伝統医学と、現時点におけるその実践の様相を紹介することによって、北米東洋医学の発展に寄与する道を求めるものである。また、東洋医学の実践者に対して、その理解をさらに深め、その技をさらに究める為に、興味と刺激となるべきものを提供し合う空間を解放するものである。

3. 創刊の経緯

「北米東洋医学」の創刊時の案内文書には以下のようにある(以下創刊案内文書より抜粋)

医学誌「主旨」(NAJOM, Mission Statement)は次の通りである。

主旨

北米東洋医学誌(JACOM)発刊の目的とするところは、東洋医学の実践者の間に、自らの知識と技術を向上させるためのネットワークを創造することである。国際的かつ多目的な雑誌として特記するアプローチや視点を掲げてはいないが、熟練された技に基づいた東洋医学を育て、我々自身を切磋琢磨するという意図をもっている。もちろん、東洋医学全般の伝統とその視点を尊重するものであるが、NAJOMは特に日本系伝統医学の理

近年北米における中医学の普及は、質・両ともにますます評価され、その発展はめざましいものがあります。しかしながらわが日本系の伝統医学は個々の治療家の実践に負う面が大きく、未だに教育や研究課程の中で採り上げられるところが少なく、1000年を越える独自の洗練されたその方法論や技術は確固とした潮流となるまでには至っておりません。私たちはこのような現状を認識し、この同人誌が日本系伝統医療の北米における発展および普及に寄与することを願うものであります。

このように「北米東洋医学誌」は、北米において近年中医学がめざましく普及しているという現実の中で、日本系伝統医療をさらに普及させるためのひとつの啓蒙的活動を目的として、鍼灸を中心とした日本の伝統医術を実践する治療家たち自信の手によって創刊されたものである。確かに、ヨーロッパにおいて筆者自身が受けた印象でも、「Acupunctureといえば中国」というイメージが強く、中医学は比較的認知されているようである。それに対して日本の鍼灸治療というものは、海外においてはやはりマイナーな印象を受ける。しかしながら「職業は鍼灸師である。」と言えば「中国針（Chinese Acupuncture）か日本の鍼（Japanese Acupuncture）か。」と聞いてくる人もいて、欧米において日本系の鍼灸が全く知られていないということでもないようである。このような欧米の実情にあって、鍼灸を中心とした日本の伝統医術のアイデンティティを明確にしていくという意味において、現在のところ、規模こそ小さいながらも、「北米東洋医学誌」のような同人誌が発刊され、上記のような主旨の活動が始められたことの意義は大きいと思われる。

4. 「北米東洋医学誌」の内容

「北米東洋医学誌」の雑誌そのもののコンセプトについて紹介すると、まず、掲載される記事は下記のような内容が中心となっている。

- ・ 鍼灸・指圧・按摩療法・湯液等の臨床報告
- ・ 日本系伝統各種療法の紹介
- ・ 北米東洋医学系ニュース
- ・ 各種レポート
- ・ 書評
- ・ 新入会員紹介

参考までに昨年発行された「北米東洋医学誌10」の目次を掲載すると以下のとおりである。

- 予後の立て方 日本鍼灸家の見方
 スティーブン・バーチ
 エイズにおける私の治療体験
 マーチン・フェルドマン

- 漢方史漫筆1 律令下の医者たち 金澤信二郎
 古典の学び方 池田 政一
 正体鍼法 反町 大一
 鍼灸治療上達法 谷町 賢徳
 Fibromyalgiaに関連した痛みとこわばりが繊細な鍼刺激によって奏功した症例の報告
 長戸 のり子
 「艾の火による癒し」精神浄化のための鍼灸
 ジェイク・ポール・フラトキン
 日本鍼灸と婦人科の治療例 アグスト・ロマノ
 実際の灸療法 水谷 潤治
 妊娠 そのすべて エドワード・オベイディー
 レポート：宮脇和登ワークショップ
 ロバート・ハイデン
 奇経治療のワークショップを振り返って
 柴田 大道
 レポート：
 パーモント州・ニューハンプシャー州
 デイディ・パースハウス
 新刊紹介「古典に学ぶ鍼灸入門」 高橋 英生
 編集後記 スティーブン・ブラウン

やはり、地域性が出ていると言うべきか、日本で刊行される雑誌にはなかなか掲載されないようなテーマがあって興味深い。日本の鍼灸をグローバルな視野で捉えることができるという点も新鮮である。

5. 雑誌の特徴

さて、この雑誌の最大の特徴であるが、それは日本語と英語のバイリンガルとなっていることである。つまり、半分が英語、半分が日本語で、同一の記事が、前半には英語、後半には日本語で掲載されているのである。筆者は発起人のひとりである水谷潤治氏が昨年来日された際にお会いし、この雑誌についての話も伺ったのであるが、水谷氏のよれば「北米において発行しているので、第一言語は英語であるが、日本鍼灸をフォーカスしているために英日のバイリンガルになっている。将来外国で活躍しようとする日本の治療家が英語の表現を学ぶのにはもってこいの雑誌であると自負している。当初は自分たちの勉強の場として始

めた同人誌であるが、5年目にして国際誌としての多様な展開の可能性も持ってきた。」ということである。

現在の会員構成を見ると、「北米東洋医学誌」という名称でありながらも、会員の所在地は北米と日本にとどまらず、ヨーロッパ、オセアニア、中東などの各地におよんでいる。これだけの内容をバイリンガルにして掲載するのであるから、常に日英もしくは英日の翻訳の作業が必要となり、その作業だけでも相当な苦勞である。さらに「北米東洋医学誌」は同人誌であるから、発行にあたる専任のスタッフが存在する訳ではない。翻訳から編集までの全ての作業が、会員である治療家たち自身のボランティア精神によって行われているのである。「北米東洋医学誌」の運営は、海外で奮闘する治療家たちの日本鍼灸に対する情熱と、その普及と発展に対する使命感によって支えられている雑誌であると言っても過言ではない。筆者自身も学会の国際部をお手伝いさせて頂いている立場として筆者自身も、「北米東洋医学誌」の活動が今後さらに発展し、世界中に散らばる日本の伝統医術の臨床家たちの大いなるネットワークを構築していくことを願うばかりである。

前述の水谷氏によると「北米東洋医学誌」は会員数が増えない限り、印刷にかかるコストの面などから運営もなかなか難しいということである。また、海外では当然ながら日本国内の情報は入りにくいものである。日本国内において多くの臨床経験をお持ちの先生方、また、今後海外において活躍したいとお考えの先生方は、海外における日本の鍼灸のますますの発展のためにも、是非とも彼らとともにネットワークを作り、積極的に相互のサポート体制を構築して頂くことをお勧めしたい。

「北米東洋医学誌」は、「医道の日本社」「たにぐち書店」「神田いざわ書林」から販売協力を受けており、日本ではこれらの店舗から購読できる。また、日本からの入会は、インターネットの「北米東洋医学誌」のホームページ(英語)に申し込みのページがあるので、そのページを利用してインターネットで申し込むか、同人参加申込書をカナダの事務局にFaxで送付すれば入会できる。筆

者も会員となっているので、入会申込書及び会費の振込先は筆者の手元にある。筆者にご連絡頂いてもお届けすることはできる。もちろん、メールアドレスをお持ちの方は、カナダの事務局に直接E-mailでご照会頂くことも可能である。ご参照いただけるよう、以下に「北米東洋医学誌」の連絡先住所、電話番号、FAX番号、ホームページのURL、事務局の水谷氏用のE-mailアドレスなどを掲載しておく。

NAJOM (北米東洋医学誌)

896 West King Edward Ave., Vancouver, B.C.
V5Z 2E1, Canada

Phone : (604) 874-8537

Fax : (604) 874-8635

URL : <http://www2.portal.ca/najam/>

URL (入会申し込み) :

<http://www2.portal.ca/najom/Membership.html>

北川 毅 (筆者) 連絡先

Phone : 03-5493-7219 (自宅)

おわりに

水谷氏曰く、「これからのテーマは、日本鍼灸が北アメリカを中心とした広大な地域において、いかに地域治療としてアダプトしていくかということ、そのフィードバックを日本側がどう受け止めるかという点にあると思う。」ということである。さて、「日本側」とは具体的にどこに該当するのであろうか。やはり、学会なのではあるまいか。学会の国際部としても、活動がもう少しアクティブになれば、いずれ彼らの支援を受けなければならない局面も出てくるであろう。双方の今後の発展のためにもお互いに支援し合える関係を構築していきたいと考える。